

日清食品グループは、より一層グローバル戦略を推進し、「EARTH FOOD CREATOR」を目指します。



株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。ここに第62期中間(2009年4月1日から2009年9月30日まで)株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

■ 持株会社制移行後の変化

2008年10月に持株会社制に移行し、新たなスタートを切った日清食品ホールディングスは、2009年10月に1周年を迎えました。持株会社制への移行で誕生した国内7事業会社の社長と海外4地域の総代表を中心として、この1年間で、より戦略的な組織へと大きく進化を遂げました。日清食品ホールディングスと各社、各地域間での効率的な連携体制の整備が進んでいます。

■ 事業の概況

当四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益の大幅な減少や雇用情勢の一段の悪化等、厳しい状況が続いています。個人消費についても、一部で回復の兆しがみられるものの、本格的な回復にはほど遠く、依然低い水準にとどまっています。

こうした状況の中、日清食品グループは、着実に歩みを進めるべく、様々な取組みを行ってまいりました。

安全面では、食品産業の根幹である食の安全性確保を最優先課題と位置付け、独自開発の残留農薬・動物用医薬品の検査システム等を活用し、使用原材料のチェックを行うことにより、消費者の皆様に安全・安心な製品を提供できるよう努めてまいりました。

品質面では、今期よりスタートしたプロジェクト「うまい!をきわめる。全麵革命」を実施するための設備の改善を行いました。

販売面では、消費者の多様なニーズに対応する商品戦略や積極的な販売活動が功を奏し、当社グループの中核となる国内即席めん事業を中心に、全般的に好調に推移しました。海外でも、北米地域を中心に、前期に引続き、既存品のカップめんや即席袋めんが好調に売上を伸ばし、全体の増収に貢献しました。

その結果、当四半期連結累計期間の業績は、順調な伸びを示しました。売上高は1,785億13百万円(前年同期比2.4%増)となりました。利益に

関しても、営業利益は売上の順調な回復と販売費の適正化、更には、海外、特に北米地域での収益力の回復もあり、123億95百万円(前年同期比7.5%増)となり、経常利益は一時的な円安による為替差益の増加もあり、157億50百万円(前年同期比14.5%増)となりました。また当四半期純利益は法人税等の減少により、104億17百万円(前年同期比82.2%増)と大幅な伸びを示しました。

■ 今後の取組み

今後、日清食品グループは、強い「マーケティング力」とユニークな「技術イノベーション力」を追求し、これらが生み出す効果的なシナジー(相乗効果)をもとに、強力な企業グループを目指してまいります。また、この2つを一層強化することで、より効果的なグローバル展開を目指してまいります。

2009年11月現在、日清食品グループが進出している国は12カ国ですが、今後も「成長する海外」へのシフトをより積極的に進めてまいります。

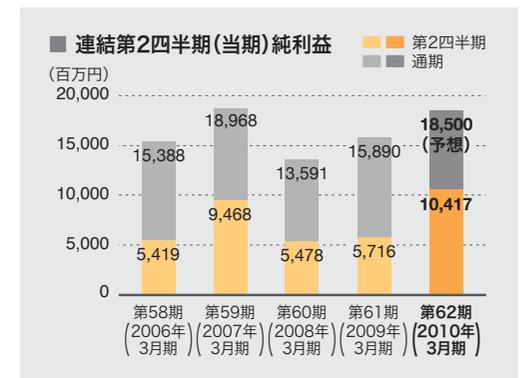
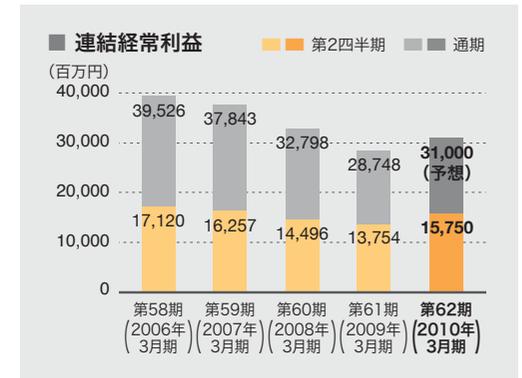
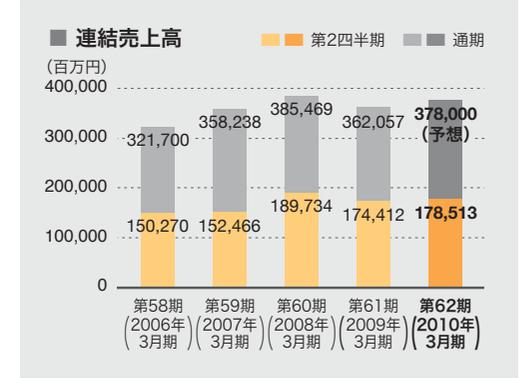
そして地球上の各地において、日清食品グループの存在感を高め、われわれのグループ理念である「EARTH FOOD CREATOR」を目指して、より一層、精進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2009年11月

日清食品ホールディングス株式会社
代表取締役社長・CEO

岩崎宏基



四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	第61期 (2009年3月31日現在)	第62期 (2009年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	158,270	151,109
固定資産	250,458	253,612
有形固定資産	101,131	105,533
無形固定資産	4,779	4,720
投資その他の資産	144,547	143,358
資産合計	408,729	404,722
負債の部		
流動負債	88,733	78,854
固定負債	34,425	44,768
負債合計	123,159	123,623
純資産の部		
株主資本	295,575	284,976
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	49,755	49,755
利益剰余金	235,052	243,113
自己株式	△14,355	△33,015
評価・換算差額等	△15,946	△10,336
その他有価証券評価差額金	△477	3,063
土地再評価差額金	△7,532	△7,532
為替換算調整勘定	△7,935	△5,867
新株予約権	—	209
少数株主持分	5,940	6,250
純資産合計	285,569	281,099
負債純資産合計	408,729	404,722

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	第61期 (2008年4月1日から 2008年9月30日まで)	第62期 (2009年4月1日から 2009年9月30日まで)
売上高	174,412	178,513
売上原価	97,381	98,699
売上総利益	77,031	79,814
販売費及び 一般管理費	65,504	67,418
営業利益	11,526	12,395
営業外収益	2,798	3,880
営業外費用	570	525
経常利益	13,754	15,750
特別利益	506	135
特別損失	2,019	463
税金等調整前 四半期純利益	12,241	15,422
法人税等	6,448	4,748
少数株主利益	76	256
四半期純利益	5,716	10,417

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、主に設備投資の増加に伴い、有形固定資産が44億1百万円増加するもの、受取手形及び売掛金の減少34億48百万円や、有価証券及び投資有価証券の減少60億84百万円により、前連結会計年度末から40億6百万円減少し、4,047億22百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金をはじめとする流動負債が98億79百万円減少するも、長期借入金や退職給付引当金等の増加の影響による固定負債103億43百万円の増加により、前連結会計年度末から4億63百万円増加し、1,236億23百万円となりました。

純資産は、利益剰余金やその他有価証券評価差額金等が増加するもの、自己株式の取得による減少により、前連結会計年度末から44億70百万円減少し、2,810億99百万円となりました。

この結果、自己資本比率は67.9%、1株当たり純資産は2,374円82銭となりました。

■ 部門別の売上状況

■ 即席めん及び付随する事業

売上高 1,594億38百万円(前年同期比3.2%増)

即席めん事業では、販売政策面において、消費の3極化に呼応したブランド施策を実施してまいりました。

ブランド価値や質を求める層には、より満足感を感じていただけるよう、第1弾として「カップヌードル」で具材を本格感のあるコロ・チャーに変更(4月)、第2弾では「シーフードヌードル」に具材を加えて旨みを大幅にアップ(7月)、9月には第3弾となる「カップヌードル カレー」にカレー専用コロ・チャーを投入するなどの具材強化を行いました。

また、めん質の更なる向上のため、新技術を駆使した製品開発に力を注ぎ、「うまい!」をきわめる。全麵革命キャンペーンを展開しています(詳細P6)。明星食品(株)でも、「スーパーノンフライ製法」で食感を高めた「究麺(きわめん)」がヒット、めんの新技術を駆使した製品が売上に大きく貢献しました。

即席袋めんも主力ブランドの「出前一丁」「日清焼そば」が前年実績を維持するなど堅調に推移しました。

一方、価格を最重要視する層に対しては、「スープヌードル」や「日清御膳」、明星食品(株)の「評判屋」等の従来シリーズに加えて、「日清ソース焼そば」、めんが1.5倍の「日清の大盛屋」等お手頃価格の製品ラインナップを充実させ、販売を伸ばしました。

楽しさや新規性を求める層においては、「カップヌードル ライト」が低カロリー志向の消費者に受け入れられ、新提案の「レンジ製品群」と併せて、新しい需要を掘り起こし、定着してきています。

海外では、北米地域を中心に、引続き、既存品が好調な売上の伸びを示し、全体の増収に貢献しました。

チルド・冷凍食品事業に関しては、日清食品チルド(株)で、チルドめんのおいしさを活かした「つけ麺の達人」シリーズが、また、日清食品冷凍(株)では、「冷凍日清スバ王」シリーズが売上を伸ばした他、前期の第3四半期から(株)ニッキーフーズが連結対象になったことにより、増収となりました。

■ その他の事業

売上高 190億74百万円(前年同期比4.1%減)

日清シスコ(株)については、ビスケットやチョコフレーク等の菓子類を中心に大きく売上を伸ばす一方、日清ヨーク(株)の清涼飲料等が減収となるなど、その他の事業は減収となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	第61期 (2008年4月1日から 2008年9月30日まで)	第62期 (2009年4月1日から 2009年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,937	17,488
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,197	1,846
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,652	△19,693
現金及び現金同等物に係る換算差額	△802	830
現金及び現金同等物の増減額	△14,714	472
現金及び現金同等物の期首残高	78,774	71,491
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	631
現金及び現金同等物の四半期末残高	64,059	72,595

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ キャッシュ・フローの状況

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)の増加は174億88百万円(前年同期比45億50百万円の増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益154億22百万円及び減価償却費42億79百万円によるものです。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の増加は18億46百万円(前年同期は231億97百万円の資金の減少)となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出134億1百万円、有形固定資産の取得による支出58億20百万円による減少があった一方で、投資有価証券の売却による収入181億36百万円、有価証券の売却及び償還による収入55億2百万円による増加があったことによるものです。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は196億93百万円(前年同期比160億41百万円の減少)となりました。これは主に、自己株式の取得による支出186億65百万円や配当金の支払額30億56百万円によるものです。

日清食品グループは、「マーケティング力」と「技術イノベーション力」でお客様に認められる製品開発を行い、グローバル戦略を展開します。

日清食品グループは、即席めん需要増が期待できる国や地域を対象に新たなグローバル戦略を展開し、特に、現地の優良なパートナーと提携して進める新規事業に注力しています。これにより、当社グループの技術力と現地パートナーの強みとのシナジーが期待されます。

上海日清食品有限公司「U.F.O.」めんストレート化

上海日清食品有限公司の「U.F.O.」でめんストレート化を実現しました。「直麺(中国では、直面と表記)」と名付け、即席フライ麺焼そばのジャンルにおいて、中国初の導入となりました。「直麺」を通じて、中国の消費者に新鮮な食感を提供でき、新時代の焼そばの提案につながっています。



ジャパンテクノロジー「ストレートめん」を世界へ

グローバル展開の一環として、「ストレートめん」技術を採用した電子レンジ調理専用パスタを世界同時発売しました。日本、中国(上海・広東・香港)、ドイツ、イギリス、フランス、アメリカの6カ国8販売拠点で新ブランド「クッチーナ・デラ・ニッシン(イタリア語で「日清の台所」の意)」を展開しています。



日清食品有限公司(香港)新「合味道」の紙カップの使用

日清食品有限公司(香港)のカップヌードル「合味道」を大きくリニューアル。スリーブ付の発泡スチロールカップからスリーブなしの発泡紙カップへと生まれ変わりました。これにより、従来のお湯かけ調理に加え、電子レンジ調理も可能になりました。また、カップ容器原料に紙を使用していますので、環境にも優しくなりました。



従来のスリーブ付カップ



あくなき品質追求を続ける日清食品グループが、新たな技術革新に向けてチャレンジを開始しました。

日清食品グループは、2009年度の基本戦略として「消費の3極化への対応」を掲げています。これは「品質にこだわりたい、価格も重視したい、楽しいモノが好き」という消費の3極化に対応する戦略です。この戦略では、①主カブランド製品(コア・ブランド)の品質強化(新技術のめんや具材の強化)、②値ごろ感と安心感の強い製品(カンパニー・ブランド)のラインナップの拡充、③新機軸の新製品(コンセプト・ブランド)の提案という3つのブランド施策を実施し、お客様の満足度の向上に努めています。

今期より開始した、めん品質強化を目的としたブランド横断プロジェクト「うまい!をきわめる。全麵革命」は、この3つのブランド施策のうち、

コア・ブランドの品質強化を目的としたものです。具体的には、めん製造工程をあらゆる角度から洗い直したうえで進化させ、ラーメンやうどん等、それぞれのめんにふさわしい特徴を生み出すための技術革新を推進します。

2009年8月には、「全麵革命」の今期第1弾商品として、「太ストレート製法」を応用し、生めんのようなコシ・のどごしをもつ「日清麵職人」を発売しました。更に9月には従来比120%のめん厚みを実現した「日清のどん兵衛」をリニューアル発売いたしました。

今後も、あらゆるジャンルで「全麵革命」を展開し、「うまい!をきわめる。」ための技術革新を更に進めてまいります。

■ コア・ブランド：麵技術の革新「全麵革命」

太ストレート製法 — “麵は太くてまっすぐがうまい!”



日清麵職人

「太ストレート製法」を応用し、生めんのようなコシ・のどごしを実現



日清のどん兵衛

従来比120%の麺の厚みを実現



日清食品

日清のどん兵衛

発売地区：北海道を除く全国

1976年の発売以来、大変好評をいただいているロングセラー商品「日清のどん兵衛」のうどんが更に厚く、「ぶっといのごとし」の「ぶっとうどん」に進化しました。「全麵革命」により開発された独自の製法「太ストレート製法」を用いて「太く、長く、強く」なり、これまでのどん兵衛にないうどんの厚みと食感を実現しました。



日清麵職人

発売地区：全国

ノンフライのどんぶり型カップめん。醤油、味噌、塩タンメン、とんこつ、担々麵をラインナップしました。「全麵革命」の今期第1弾商品として、「太ストレート製法」を応用し、「もう、インスタントとはいわせない。」というコピーにふさわしく、めんに生めんのようなごとしを実現しました。



明星食品

究麵 濃厚みそ

発売地区：全国

明星独自の「スーパーノンフライ製法」技術を結集し、高品質なめんの食感を実現したカップめんです。濃厚なみそ味のスープがコシのある太ちぢれ麵と絶妙にからみ、炒め野菜の風味とロードの熱々感が食欲をそそります。かやくはキャベツ、もやし、挽肉、ねぎ、にんじん、ごまを合わせ、オーソドックスながら、みそラーメンと相性の良い具材を組み合わせました。



日清食品チルド

行列のできる店のラーメン 魚介豚骨醤油2人前

発売地区：北海道、沖縄を除く全国

おなじみの「行列のできる店のラーメン」から、スープの濃厚感によりこだわった新シリーズとして「濃厚極旨 魚介豚骨醤油」が登場しました。濃厚な豚骨ベースの醤油スープに、たっぷりの魚粉を加えて仕上げる豊潤な味わいのスープは、チルドならではのおいしさを追求した価値ある逸品です。



日清食品冷凍

冷凍日清のどん兵衛 きつねうどん

発売地区：全国

どん兵衛ブランドを前面に出した新パッケージの「冷凍日清のどん兵衛」シリーズから「きつねうどん」が新登場しました。甘く炊き込んだ大きなお揚げが自慢のジュシーなきつねうどんです。冷凍特有のもっちりとしたコシとつるみのあるうどんと、昆布の旨みと鰹の風味で薄味ながらコクのあるつゆが食欲をそそります。



日清シスコ

クリスピーチョコ ミルクチョコ

発売地区：全国

サクサクで香ばしい薄焼きのコーンフレークを、たっぷりのミルクチョコレートでかためたクリスピーなおいしさのチョコスナックです。サクサクとした軽い食感と、かわいらしい円盤型が特徴です。



日清ヨーク

ピルクルLife+

発売地区：沖縄を除く全国

おなじみ「ピルクル」ブランドから、「ピルクルLife+」が新登場しました。健康に良い乳酸菌飲料をより身近に摂っていただきたいという思いから、簡便性を追求した「飲みきりサイズ」の200ml紙パックにしました。カロリーも従来より30%カットし、健康志向の高いお客様にも安心してお飲みいただけるようになりました。



味の民芸フードサービス

具沢山のけんちんうどん (手づくりうどん「味の民芸」店 新メニュー)

「根野菜が入って心が和む」がテーマの、野菜がたくさん入ったうどんです。手づくりならではの味わい深さが特徴で、つゆはのどかでやさしい味の、みそ仕立てとしょうゆ味があります。



日清食品グループは、社会貢献活動「百福土プロジェクト」^{ひやくふくし}を推進しています。

※ 2008年の創業50周年を期に、今後50年間に合計100の社会貢献活動を行うプロジェクトをスタートしました。

アフリカ事業化自立支援「“Oishii”プロジェクト」

日清食品グループは、2008年2月から、食糧難に苦しむアフリカ・ケニアの人々に、インスタントラーメンの作り方を教えて、経済的な自立を支援する事業「“Oishii”プロジェクト」を実施しています。

2009年3月には、インスタントラーメンの実験室と製造ラインが設置された施設「“Oishii”プロジェクトラボ」が、ジョモケニヤツタ農工大学の敷地内に完成しました。ラボでは、当社グループの研究スタッフとジョモケニヤツタ農工大学の研究者が共同開発した「ケニア版・チキンラーメン」が1日1,000食生産され、浄水設備が施された「ケニア版チキンラーメン号」で周辺の小学校に給食として届けられています。「“Oishii”プロジェクト」では、2010年7月までに200校(10万食)を目標とし、学校給食活動や各種イベントを通じて、インスタントラーメンの普及に努めています。



「“あやしいオヤジを、正しいオヤジに変える!”プロジェクト」

日清食品グループは、2008年10月から当社グループの50歳以上の従業員等による社会貢献活動を展開しています。これは、リタイヤした団塊世代が、ぶらぶらするだけの“あやしいオヤジ”になるのではなく、自然体験活動の指導者資格をとって、ボランティアで将来を担う子供たちに自然の素晴らしさや楽しさを教える“正しいオヤジ”になろうというプロジェクトです。

2009年7月には第2回目の研修会を実施、約20名が参加しました。参加者は「環境教育とは何か」「学校教育と自然体験活動」等の講義や救命救急講習等、のべ25時間にわたるカリキュラムを熱心に受講。全員がCONEリーダー[※]、学校支援リーダーという2つの自然体験活動指導者資格を取得することができました。今後、資格を活かして、学校や地方自治体の依頼に応じて自然体験活動に協力していきます。



※ CONEリーダー：自然体験活動推進協議会(略称：CONE)が設ける自然体験活動指導員資格制度

会社概要 (2009年9月30日現在)

商号	日清食品ホールディングス株式会社 (NISSIN FOODS HOLDINGS CO., LTD.)	東京本社の所在地	東京都新宿区新宿六丁目28番1号
設立	1948年9月	大阪本社の所在地	大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
資本金	25,122,718,774円	事業内容	グループ事業会社(国内・海外)への経営サポート等
従業員数	387名		

役員及び執行役員 (2009年10月1日現在)

取締役

代表取締役 取締役社長・CEO	安藤 宏基
代表取締役 専務取締役・COO 日清食品(株)代表取締役社長	中川 晋
常務取締役 日清食品チルド(株)代表取締役社長 兼 日清食品冷凍(株)代表取締役社長	松尾 昭英
常務取締役・CSO	成戸 隆之
取締役 アジア総代表 兼 日清シンガポール社長	松村 泰治
取締役 米州総代表 兼 米国日清社長	笹原 研
取締役・CFO	柳田 隆久
取締役・CMO	安藤 徳隆
取締役 欧州総代表 兼 ドイツ日清社長	鉄林 修
取締役・CPO	横越 隆史
取締役・CQO 兼 食品安全研究所長	山田 敏広
取締役・CDO 兼 食品総合研究所長	田中 充
取締役(社外取締役)	小島 順彦
取締役(社外取締役)	小林 栄三

監査役

常勤監査役	牧園 俊作
常勤監査役(社外監査役)	金森 一雄
監査役(社外監査役)	堀之内 徹
監査役(社外監査役)	高野 裕士

執行役員

執行役員・中国総代表 兼 香港日清社長	安藤 清隆
執行役員・生産本部 副本部長	岩井 章
執行役員・総務部長	右近 龍也
執行役員・事業戦略本部 副本部長	楠本 一人
執行役員・技術統括部長	坂井 孝司
執行役員・宣伝統括部長	佐々木 智
執行役員・CAO 兼 広報部長	服部 秀樹
執行役員・財務経理部長	横山 之雄

CEO Chief Executive Officer の略記(最高経営責任者)
 COO Chief Operating Officer の略記(最高執行責任者)
 CSO Chief Strategy Officer の略記(グループ事業戦略責任者)
 CFO Chief Financial Officer の略記(グループ財務責任者)
 CMO Chief Marketing Officer の略記(グループマーケティング責任者)
 CPO Chief Production Officer の略記(グループ生産責任者)
 CQO Chief Quality Officer の略記(グループ安全研究責任者)
 CDO Chief Development Officer の略記(グループ食品総合研究責任者)
 CAO Chief Administrative Officer の略記(グループ管理責任者)

株主メモ

事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日までの
1年間

配当金受領株主確定日：期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数：100株

定時株主総会：6月中に開催

基準日：3月31日
その他必要あるときは、あらかじめ公告
して定めます。

公告の方法：電子公告の方法により行います。た
だし、電子公告によることができない事故
その他のやむを得ない事由が生じたと
きは、日本経済新聞に掲載する方法に
より行います。
公告掲載URL
<http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/koukoku/>

株主名簿管理人
特別口座の
口座管理機関

同事務取扱場所：大阪市北区曽根崎二丁目11番16号
みずほ信託銀行株式会社
大阪支店証券代行部

郵便物送付先：〒168-8507
及びお問合せ先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-288-324(フリーダイヤル)

上場金融商品取引所：東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部

株主様ご優待

基準日	対象株主様	ご優待内容
3月31日 (6月贈呈) 及び 9月30日 (12月贈呈)	100株以上 1,000株未満 ご所有の株主様	1,500円相当の 当社グループ会社の 製品詰合せ
	1,000株以上 ご所有の株主様	3,500円相当の 当社グループ会社の 製品詰合せ

ご案内

(1) 株券等の5日目決済及び期間売買停止の廃止に係るご案内

東京、大阪等証券取引所におきましては、2009年11月19日(木曜日)以降に設定される基準日について、株券等の普通取引の権利付最終日を、従来の基準日等の4営業日前の日から3営業日前の日とすることが決定されました。

これに伴い、当社株式の売買につきましても、2010年3月31日(水曜日)の基準日から、普通取引の権利付最終日が、1営業日後倒しとなり、当該基準日に係る普通取引の権利付最終日は、2010年3月26日(金曜日)となりますので、ご案内申し上げます。

また、株式併合等に伴って行われておりました効力発生日の4日前から効力発生日の前日までの間の売買停止(期間売買停止)は、廃止されましたので、ご案内申し上げます。

(2) 株主様専用電子メールアドレスのご案内

当社は、株主様からのご意見を、お電話、お手紙の他に電子メールを利用してお寄せいただくための専用電子メールアドレスを設けております。

当社について日頃お気付きの事柄がございましたら、次のメールアドレスまでご意見をお寄せください。

なお、お電話、お手紙でもお待ち申しあげております。

① 株主様専用電子メールアドレス

E-mail soumu@nissinfoods-holdings.co.jp

② ご連絡先

〒160-8524

東京都新宿区新宿六丁目28番1号
日清食品ホールディングス株式会社

総務部 株主様係

TEL (03)3205-5111(代表)

FAX (03)3205-5059

E-mail soumu@nissinfoods-holdings.co.jp

日清食品ホールディングス株式会社

東京本社 〒160-8524 東京都新宿区新宿六丁目28番1号
TEL (03)3205-5111(代表)

大阪本社 〒532-8524 大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
TEL (06)6305-7711(代表)

ホームページ <http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/>

